

# 秋田杉恋 SUGIKOI プロジェクト

一杉に恋して秋田に出逢うー

## 秋田杉恋プロジェクトとは

日本三大美林の1つに数えられる「秋田杉」。戦後の県民あげての植林事業によって全国一の蓄積量を誇る秋田県の財産「秋田杉」。しかし外材の輸入解禁、木材価格の低迷などの影響で消費量は減少の一途をたどり手入れもされないスギの放置林が増え、森林は荒廃していく一方です。「秋田杉」を次世代に財産として引き継ぐためには、杉を活かしたもののづくりだけでなく杉を使った秋田らしいまちなみ景観の形成を通して、杉を使う文化を育て次世代に引き継ぐことが大切だと考えます。杉に恋して秋田に出逢う、秋田発「杉好き」プロジェクト「杉恋 SUGIKOI」はこれらの課題を解決するためスタートしました。

## 秋田杉恋デザインコンペ最終選考会 & 景観デザインセミナー

平成 24年 5月 26日 (土)

秋田拠点センターアルヴェ 1階きらめき広場

景観デザインコンペ最終選考会	12:30-12:40	最終選考会 開会
	12:40-13:30	プレゼンテーション 計7作品
	13:30-14:00	別室会議室にて審査
	14:00-14:30	表彰式

景観デザインセミナー	14:50-15:00	開会挨拶 秋田地域振興局長
	15:00-15:50	基調講演 篠原 修 氏 (土木設計家/NPO法人GSデザイン会議代表/エンジニア・アーキテクト協会会長)
	15:50-16:30	基調講演 武田 光史 氏 (建築家/日本工業大学建築学科 教授)
	16:30-16:50	報告「秋田の景観と杉活用の現状」(各10分程度) 秋田県(林業木材産業課) 秋田市(まちづくり整備室)
	16:50-17:10	<休憩> 会場から意見・質問シートを回収
	17:10-18:00	全体ディスカッション(審査員、パネリスト、会場の参加者も交えて) 進行 菅原 香織(秋田公立美術工芸短期大学・産業デザイン学科助教)
	18:00	閉会(閉会后、懇親会とフリーディスカッションを予定)

## 秋田杉恋 SUGIKOI プロジェクト

### 主催 秋田杉恋実行委員会

(秋田駅前周辺にぎわい創造会議/秋田地域振興局/北のスギダラ ほか)

協力 日本全国スギダラケ倶楽部 NPO法人GSデザイン会議 エンジニア・アーキテクト協会  
後援 東北森林管理局 秋田県 秋田市 秋田中心市街地活性化協議会 秋田公立美術工芸短期大学 秋田県木材産業協同組合連合会 秋田県森林組合連合会 東日本旅客鉄道株式会社秋田支社 NPO法人緑の列島ネットワーク ほか予定

制作協力 池田建築店 佐藤木材容器 石川建設株式会社 伊藤工業株式会社 庄内鉄工株式会社 有限会社中野木工 株式会社黒澤製材所

事務局 秋田杉恋実行委員会事務局 北のスギダラ (日本全国スギダラケ倶楽部秋田支部) 菅原香織

お問合せ Email kaori@amcac.ac.jp TEL 018-888-8120

## 秋田杉景観デザインコンペ 最終選考作品一覧

### 秋田駅前周辺を おもてなしとにぎわいの空間に

一次審査を通過した、7点の作品から審査員によって以下の賞が選定されます。最優秀賞1点、優秀賞1点、特別賞数点。そして、審査員審査とは別に市民賞を一般の参加者から選んでいたできます。掲載されている7点のなかからは是非秋田の街に!という作品を選び、投票をして下さい。優秀賞、特別賞、市民賞は秋田杉を活かした景観モデルとして秋田駅前周辺への設置を関係機関に提案します。



作者 空間工房 三好 恵介

都会でゆっくり一休み、カマクラフォーリー。杉を編んで作られる囲みが落ち着いた空間をつくりだす。間伐材をたくさん使用した大きさがバラバラの小丸太は大きなベンチになっていて秋田を楽しむ人達の休みに。落ち着いた空間はコミュニケーションの誘発装置にもなり、ちょっとしたおしゃべりも楽しめる景観アクセント。



作者 森 一広

公共空間にみられる視覚障害者をやさしく誘導する点字ブロック。杖から伝わるちよつとしたやさしい感触。待ち合わせの時にふと足元に映る杉模様。足元に広がる木の質感が、ここを訪れた人々にやさしさを届ける。意識しなかった人々も、その役割とやさしさに気がつくだろう。それがおもてなし、にぎわいの空間へつながっていく。



作者 佐藤 広貴

秋田に縁のあるものをモチーフにした秋田杉の祭り飾り。秋田の竿燈、かまくら、きりたんぼ、アムッコ市など見ただけで秋田が伝わるものをモチーフとした。これは県外の人を訪れた際に、秋田に来たと実感し喜んでもらえるような秋田らしいものがあって欲しいと考えたから。そんな思いを形にすべく、祭り飾りをデザインした。

### 審査委員紹介

審査委員長 川上 元美 氏  
(デザイナー/川上デザインルーム 代表)



東京芸術大学、多摩美術大学、金沢芸術工芸大学、神戸芸術工科大学などの客員教授を歴任。プロダクトデザイン、インテリアデザイン、環境デザイン等を手がける。各地の地場産業の活性化事業や地方人材育成事業に協力。毎日デザイン賞、グッドデザイン賞金賞など、数々の賞を受賞している。

審査委員 篠原 修 氏  
(土木設計家/エンジニア・アーキテクト協会 会長/GSデザイン会議 代表)



東京大学大学院教授、政策研究大学院大学教授を歴任。専門は、景観デザイン、設計・計画思想史。土木学会デザイン賞最優秀賞、土木学会田中賞、グッドデザイン賞金賞、他受賞多数。

審査委員 南雲 勝志 氏  
(デザイナー/ナグモデザイン事務所 代表)



家具や景観、環境プロダクトデザインを通して、社会やまちづくりにおいての可能性を探る。2004年に日本全国スギダラケ倶楽部を設立、木の文化を広げる活動を全国で行う。

審査委員 小野寺 康 氏  
(都市設計家/小野寺康都市設計事務所 代表)



一級建築士の資格を持ち、都市デザイン、景観設計をはじめとする設計関連の活動を行っている。土木学会デザイン賞 最優秀賞、グッドデザイン賞 特別賞を受賞。

審査委員 武田 光史 氏  
(建築家/日本工業大学建築学科 教授)



武田光史建築デザイン事務所を設立。東京建築士会住宅建築賞、日本建築学会賞等を受賞。建築設計を専門に都市再生等を目的とした研究をしている。

審査委員 上 練三 氏 (秋田県農林水産部森林技監)

審査委員 鎌田 潔 氏 (秋田市副市長)

審査委員 矢部 三雄 氏 (東北森林管理局長)



作者 大野 篤子

みんなに親しまれ、番犬としても活躍する秋田犬をモチーフにした秋田杉を使用した立入禁止のバリエード。休館日の公共施設や、定休日の店舗などの留守を、この秋田犬が守ってくれる。ぬくもりのある秋田杉と、秋田犬の親しみやすさで、秋田の街にとけこむデザインを心がけた。



作者 SKO21 大野 信二 斎藤 妃里 笹下 このみ

秋田杉を使った車の目隠し。秋田駅西口のぼぼろ一帯を通り中通りに向かう途中に大きな駐車場がある。秋田に来た人が秋田駅を出て最初に見る景色が駐車場の車になってしまいかもしれないと思目隠しを作ろうと考えた。杉材を使うことで、秋田県では杉材を使って街づくりをしているという気持ちを県の内外の人にアピールできる。



作者 田中 広幸

木材本来の素材感や質感によって表現された素朴で力強いストリートファニチャー。街を歩いてほっと一息腰掛ける。丈夫で素朴な木のベンチに寄りかかって、ゆっくりと街を眺め、気持ちのいい風に吹かれる。表面に残る加工の痕跡としての僅かな凹凸が、子供からお年寄りまで、触ってみたい、座ってみたいという人間本来の知覚を喚起するだろう。



作者 佐藤 利之

秋田杉の曲げっぱをモチーフとしたマルチに使える置物。椅子やテーブル、置き台、ステージなどとして自由に使用できるこの置物は、自由で自然な形とは裏腹に型ごとにスタッキングして搬送、収納が可能となっている。そのため、状況に応じた様々な使用ができ、可変的な人々の集まり、緩やかな賑わいが継続の場を作りだす。